

青年部会だより

「青年部会一都三県（東京都・栃木県・群馬県・長野県）合同交流会」

令和元年 11月30日（土）

11月30日（土）、一都三県の合同交流会が、東京都から2名、栃木県から5名、群馬県から3名、長野県から13名が出席し、長野県松本市にて開催しました。

国宝松本城の見学、城下町の街並みを散策するとともに、会員相互の親睦を深めることを目的と致しました。

国宝松本城は、深志城が始まりと言われ、現存する5重6階の天守の中で日本最古の国宝の城で、大天守（だいてんしゅ）、乾小天守（いぬいこてんしゅ）、渡櫓（わたりやぐら）、辰巳附櫓（たつみつけやぐら）・月見櫓（つきみやぐら）の5棟で形成されています。戦国末期の城とはいえ、戦いに備えての鉄砲狭間（てっぽうはざま）・矢狭間（やはざま）・石落としを備えていました。

国宝松本城の当時の役割ですが、江戸の徳川家康を監視する城として、甲府城、高島城、上田城、小諸城、沼田城とともに、豊臣秀吉側の

城主が配置された江戸包囲網の1つの城とされているようです。

平日にもかかわらず、多くの観光客が見学しており、すべて木造で造られている骨組み、急勾配な階段を見学・体験していました。暖房設備が無い為、足裏が非常に寒かったのを覚えています。

国宝松本城の見学の後は、城下町の町並みの見学として、縄手通り、中町通りを散策し、土蔵の建ち並ぶ風景、城下町松本の風景を楽しみながら、見学しました。

その後、懇親会会場の「凡蔵」へと移動し、大いに親睦を深めることが出来ました。ゲストとして、長野県鐵構事業協同組合・飯島理事長、長野県鐵構事業協同組合中信支部支部長・倉科支部長にご参加いただき、倉科支部長からは、松本市のアピール、そして「青年部として有意義な交流の機会をたくさん企画し、多くの意見交換し合ってほしい」と語られました。

